

「 ヒアルロン酸と鮭 」(協同組合通信/日和見論弾)平成 17 年 11 月 16 日

平年より、半月遅れで北国から雪の便りが届き、変わりやすい秋が深まってきた。

女性の「いつまでも美しくありたい」という願いがこもり、鏡に映る顔や肌に注がれるこの時期の手入れにも熱がこもる。大気が乾き、紫外線シミから乾燥肌対策へと重心が移る。

女性の夢を確実に叶えてくれる成分が、「ヒアルロン酸」。この成分は元来、人の体内にも存在している魔法のような保水力を持っているのが特長。美容の本によれば、わずか 1 グラムのヒアルロン酸で、6 リットルの水分を吸収するというまさに歓喜のパワーがある。

肌のみずみずしさを保ち、うっとり・ぶるぶるにしてくれるヒアルロン酸は、女性の美しさにとって、欠かせない栄養成分。赤ちゃんの肌のプルプルとハリは、その体内にたっぷりヒアルロン酸が存在し、効果的な働きをしているから。

残念なのは、加齢とともに体内での生成力が減少。40 代では、赤ちゃんと比べると半減。そのために、ヒアルロン酸不足におちいり、うるおいが保ち難くなる訳。しかも、消耗が早いので、日々新しいものを補給することが必要となる。

この成分を安定して抽出精製することは、原料の確保とともに、高度な技術力とコストがかかる。化粧品メーカーにとって、自然界からいかにこの成分を安全かつ高純度で製品化するかに、研究開発陣の能力と経営者の真摯な姿勢が問われる。

食欲の秋。化粧も大事だが、身体の中からも健康にしたいもの。薬学博士久郷氏によると、食べることでヒアルロン酸を補給できる(読売 041014)。しかも、日本に昔から伝わる伝統料理にあるというから、思わず生唾がでる。魚の煮ごりや鮭の鼻曲がりの酢の物に、豊富に含まれているという。日本人が欧米人に比べて、肌がきめ細かいのはこの食生活によるものだと指摘する。

そろそろ、木枯らし一号が訪れる頃、美味しい獲れたての紅鮭が賑やかな食卓を飾る。今夜は石狩鍋でお腹も肌もプルプルにしたい。つまみは鮭の酢の物で酒は純米酒。秋の夜長の化粧台で、うっとりとする女性が多くなるとうれしい。

(気象情報システム株式会社 高 津 敏)